

農学生命科学部

第7回 研究推進セミナー

【第13回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

細胞分化多能性と生殖細胞性の制御機構

演者：松居 靖久 先生

東北大学

加齢医学研究所・教授

日時：平成26年10月23日（木）

17:40～19:10

場所：弘前大学コラボ弘大8階大会議室



生殖細胞と多能性幹細胞は、分化多能性の維持の鍵となるいくつかの遺伝子を共通して発現しており、類似した性質を持つと考えられます。そして実際に、胎仔期の未分化な生殖細胞である始原生殖細胞（PGC）は、培養条件下でいくつかの細胞外因子が作用することにより多能性幹細胞へ変化することができます。しかし、PGCそのものは配偶子にのみ分化するのに対して、多能性幹細胞はすべての種類の細胞に分化を開始でき、両者の分化能力には明らかな違いがあります。この似て異なる多能性幹細胞と生殖細胞の違いを生み出しているメカニズムには興味を持たれます。今回のセミナーではPGCが多能性幹細胞へ変化する機構と、逆に多能性幹細胞がPGCへ直接変化する可能性について、私たちの研究を中心にお話します。

主催：農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室
小林一也（内線3587 kobkyram@cc.hirosaki-u.ac.jp）

共催：研究推進委員会 学部後援会